

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称	GEO本町通7	
建設地	中央区 本町通七番町1082番	
用途地域	商業地域	
建物用途	集合住宅	
竣工年	2018年1月 予定	
敷地面積	546.85 m ²	
建築面積	328.26 m ²	
延床面積	2,876.12 m ²	
階数	地上12F	
構造	RC造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2016年10月28日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{50.0}{40.4} = 1.2$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.1		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	2.8
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.8		建物の熱負荷抑制	5.0
			自然エネルギー利用	2.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

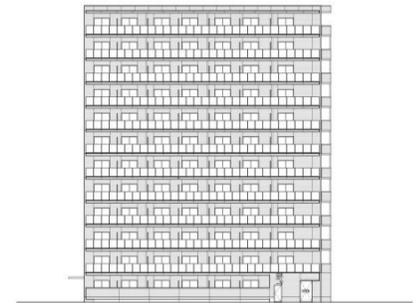
- 住宅性能表示制度の劣化対策等級3、維持管理対策等級2(共用部)を確保し長寿命化の取組みに配慮した。
- 住宅性能表示制度の省エネ等級4を確保し断熱性能の向上に努め、建物の熱負荷抑制に配慮した。
- リサイクル資材や節水型の器具を積極的に採用して資源循環の取組みに配慮した。

CASBEE[®]新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GEO本町通7	階数	地上12F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	94人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2016年10月28日
敷地面積	547 m ²	作成者	勝沼幸男
建築面積	328 m ²	確認日	2016年11月4日
延床面積	2,876 m ²	確認者	勝沼幸男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合 省エネルギーや耐久性を考慮するとともに、共同住宅という用途上、室内環境や防犯にも配慮した。		その他
Q1 室内環境 全住戸とも南向きにバルコニーを配置し、明るく暖かい住空間となるよう配慮した。 また、年間暖冷房負荷を350MJ/m ² ・年以下となるよう断熱性能を高めた。	Q2 サービス性能 天井高の確保や内装によって生活空間としての魅力の向上に配慮した。 また設備配管についても長寿命のものを使用するように配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 道路境界沿いの緑化により敷地内温熱環境の向上を図った。 交差点に隣接してピロティを設け都市のアメニティに貢献できるように配慮した。
LR1 エネルギー 住宅性能表示制度の省エネルギー対策等級4と同等性能を確保するとともに、照明人感センサー等を採用して省エネルギーに配慮した。	LR2 資源・マテリアル 節水型機器の採用により水資源保護に配慮した。また、有害物質を含まない材料を使用し環境負荷低減に配慮した。	LR3 敷地外環境 ストックスペースを広めに確保しゴミの分別回収に対応できるように配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される